

千葉県の中小企業は、「攻めの経営戦略」としてSDGsに前向きに取り組んでいきたい。

千葉県は、県内企業等におけるSDGs推進の機運を醸成するとともに、具体的な取り組みを後押しするため、「ちばSDGsパートナー登録制度」を創設している。同制度にはSDGsの達成に向けた活動に取り組んでいる、または取り組む意欲のある企業・団体が参加できる。登録先になると、県のHPや関連資料で紹介され、SDGsに取り組む姿勢を広く発信することができる。21年度の創設以降、累計登録先数は着実に増加しており、足もとでは2,195先となっている（図表1）。

他方、帝国データバンクが9月に公表した意識調査によると、SDGsに「取り組んでいる」と回答した県内企業は全体の23.5%と、前年比▲4.0%ポイント減少した。また、企業規模別にみると、大企業ではSDGsに「取り組んでいる」企業が38.9%であるのに対し、中小企業では21.3%にとどまるなど、規模間の格差が大きい（図表2）。コスト高や人手不足が厳しいなか、それらの影響を受けやすい中小企業が、SDGsに二の足を踏んでいる可能性が考えられる。

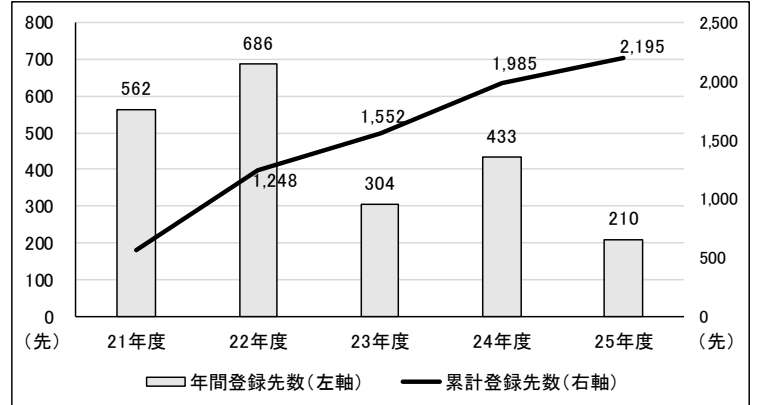
SDGsは、そのコストが意識されがちであるが、中長期的には中小企業の経営課題の解決や企業価値の向上につながり得る。具体的な効果としては、①社会的信用やブランドイメージの向上による人材の確保・定着、②省エネの取り組みや廃棄物の削減による長期的なコストの削減、③大企業から求められるSDGs対応の達成によるサプライチェーンの維持・拡大、④SDGs関連融資をはじめとする資金調達の優位性、などが挙げられる。

経営資源が限られる中小企業がSDGsに取り組むにあたっては、「スモールスタート」が望ましい。例えば、社内での省エネ活動やペーパーレス化、社員の健康増進など

「できることから始める」ことが大事だ。ちばSDGsパートナー登録制度を含めた県のHPでは、スモールスタートの参考となる取り組みに加えて、SDGsの視点を取り入れながら新規ビジネスや基盤強化を進める県内企業・団体の取り組みも確認することができる（図表3）。県内では、地域金融機関が独自に提供するSDGs関連融資のほか、脱炭素化や生産性向上に利用できる自治体の補助金制度があり、設備導入などに伴うコスト負担に対してそれらの活用も有効である。

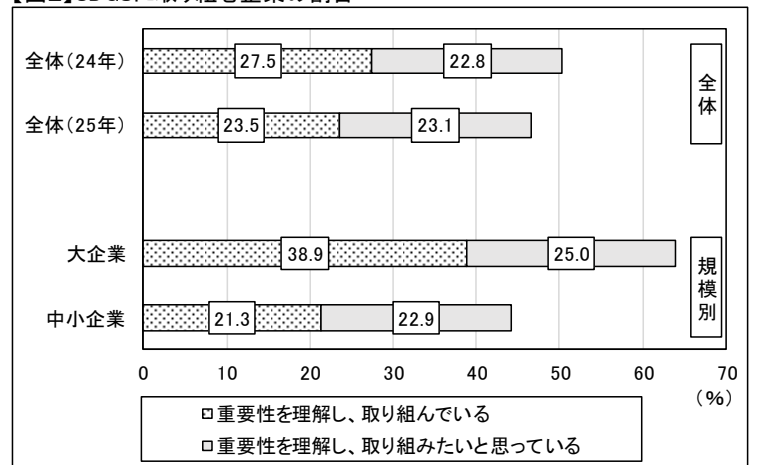
コスト高や人材不足などは目前の差し迫った課題であるが、企業は自社の価値向上や競争力強化を図る中長期的な「攻めの経営戦略」としてSDGsに前向きに取り組むたい。（竹津）

【図1】ちばSDGsパートナー登録制度の参加企業・団体数の推移



（出所）千葉県の資料をもとに、ちばぎん総研が作成 （注）25年度は9月15日現在の実績

【図2】SDGsに取り組む企業の割合



（出所）帝国データバンクの資料をもとに、ちばぎん総研が作成

【図表3】県内企業によるSDGsの取り組み

企業名	事業内容	所在地	取組内容
㈱みつわ	印刷	千葉市	強みである環境に配慮したグリーンプリンティング技術を活かし、他企業や行政との連携を進めている
㈱新松戸造園	造園	松戸市	女性が働きやすい職場づくりを推進しており、20年に県内建設業で初となる「えるぼし認定」を獲得した
㈱常磐植物化学研究所	医薬品製造	佐倉市	若手研究者向けの「佐倉・サイエンスアカデミー」などの主催を通じて、次世代の育成に力を入れている
㈱船橋総行	OA機器販売	船橋市	脱炭素化に向けて、自社で開発した駐車場充電システムの普及拡大を進めている
㈱亀山温泉ホテル	宿泊	君津市	自社も協力する地域の里山整備で発生した間伐材を、ホテルの燃料やアクティビティに活用している

（出所）各資料をもとに、ちばぎん総研が作成